

令和元年 11 月 21 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 14 日（木）19：00～21：00
- 2 場 所 東高津小学校体育館（高津区北見方 2－5－1）
- 3 対象地域 諏訪排水樋管周辺地域
- 4 出席者
上下水道事業管理者 金子 督
上下水道局総務部長 大畑 達也
上下水道局下水道部長 鈴木 利之
上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴
上下水道局下水道部下水道管理課長 松浦 妙子
上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通
上下水道局下水道部下水道計画課担当課長 峯 健介
上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太
上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛
上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利
上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明
上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

管理者：

川崎市上下水道局上下水道事業管理者の金子でございます。台風 19 号による浸水被害に関する説明会の開催にあたりまして、一言ごあいさつさせていただきます。今回の台風 19 号では多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇いたしまして、多摩川の水が、下水道管を逆流したことによりまして、排水樋管周辺の地域において浸水被害が発生してしまいました。結果的にこのような被害発生してしまったことにつきまして、深くお詫び申しあげますとともに、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。下水道事業者としましては今回の事態を大変重く受けて止めております。原因をしっかりと検証した上で、今後も、このような事態に遭遇した場合でも被害を最小限にできますようにしっかりと対策を講じて行きたいと考えております。本日の説明会では、被害の概要、対策・対応

状況等につきましてできるだけ丁寧に説明させていただくつもりでございます。また、その後のご質問・ご意見につきまして十分に時間をとらせていただくつもりでございます。詳細につきましては、担当の課長から説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会：

続きまして、説明会の進行に関し3点ほど説明させていただきます。はじめに、この会場は東高津小学校様よりお借りしている体育館でございまして、ご使用できる時間が午後9時までとなっております。次に、説明会にご参加されている方、個人が特定できるような写真や動画の撮影はご遠慮いたしますようお願い申し上げます。次に、この説明会の正確な記録を作成するために録音させていただきますのでご了承ください。それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤より説明させていただきます。

管路保全課長：

管路保全課長の後藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着席させていただいて、説明させていただきます。それでは、お手元にお配りしております資料の説明をさせていただきます。右下にページが振ってございます。諏訪一2と書いてあるA3のページをご覧ください。こちらは浸水被害が発生した諏訪排水樋管周辺地域の地図でございます。右下の凡例にもお示しをしておりますが、赤い丸印の場所に諏訪排水樋管が設置されております。この諏訪排水樋管の役割は緑色の線で囲われた六ヶ村堀排水区に降った雨を集めて速やかに多摩川へ排水するための施設となっております。この六ヶ村堀排水区は、汚水と雨水を分けて排水する分流式下水道でございます。浸水の原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積した状況をふまえると想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて地盤が低い排水樋管樋管周辺箇所であふれたことによるものと考えているところでございます。続きまして、3ページ目、諏訪一3と書いてあるページをご覧ください。諏訪排水管箇所における浸水の概要でございます。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示ししておりますとおり、濃い青線でお示ししているのが諏訪排水樋管、水色の線が樋管に接続している下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが上下水道局のパトロールで確認した浸水の範囲となっております。この浸水の範囲でございますが、職員がパトロールのときに確認したものでございますので、実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかとは思いますが、大変申し訳ございませんが、その点につきましてはご容赦をいただけますようお願い申し上げます。また、右側がパトロールのときに撮影した現地の写真でございまして、位置図に記載がある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。この地域では、想定浸水面積が約13ha、枠外でお示ししている写真の撮影した地点でおおよそ2mの浸水があったことを確認をしております。続きまして、

4 ページ目、諏訪—4 書いてあるページをご覧ください。今回の台風第 19 号による諏訪排水樋管箇所の災害対応についてご説明いたします。左上の図をご覧ください。赤丸でお示しをしている諏訪排水樋管は、緑枠で囲んだ六ヶ村堀排水区の雨水を多摩川へ排水する施設でございます。上段右側の樋管ゲート写真にお示ししていますのが諏訪排水樋管でございます。縦が 2.97m、横が 1.7m のボックスカルバート、これが 2 つある 2 連構造となっております。この樋管の縦断図を左下にお示ししております。縦断図に記載している数字は多摩川の基準面から測定した高さでございます。樋管の底部の高さが 6.425m、諏訪排水樋管周辺の最低地盤高が 10.244m となっております。樋管に設けているゲートは、上段右側の全景写真のような景観となっております。その位置は下段の縦断図の破線の部分に設置されております。通常は、ゲートを上げて樋管をあけてありますが、このゲートを下げて樋管の出口をふさぐことで、河川から下水道への逆流を防止することが可能です。一方、ゲートを降ろしている間に市街地に雨が降ると、雨水が排水先を失うことになり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性があるといえます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があります。操作手順に従い操作をしております。続きまして、5 ページ、をご覧ください。次に、この諏訪排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明をいたします。上部の黄色く着色してある太枠部分、「諏訪排水樋管について」をご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には諏訪排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている 2 点目の箇所に記載しておりますが、操作の前提として「降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、諏訪排水樋管ゲートを全開にする」としてしております。これは、ゲートを閉鎖することによって内水氾濫原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合はゲートを閉じないとしております。この太枠の一点目をご覧ください。操作の判断といたしまして「田園調布（上）水位観測所の河川水位 6m において、周辺状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断する」としてしております。中央の左の図は、台風第 19 号が上陸した 10 月 12 日から 13 日かけての多摩川の水位と雨量データを時系列で提示したものでございます。青い折れ線でお示ししておりますのが、田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により、河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という、田園調布（上）水観測所での計画高水位である 10.35m を超える、観測史上最高水位を記録しております。また、青紫の棒グラフが高津道路公園センターでの雨量観測データを記録しております。この図の右側には、当時の諏訪排水樋管における活動記録を記載しております。この活動記録をご覧ください。12 時 40 分頃に田園調布（上）水位観測所の河川水位が氾濫注意水位である 6m に達したことを確認しておりますが、この時点では、降雨が確認されたこと、台風第 19 号がまだ上陸しておらず、今後大雨が降る危険があり、ゲートを閉鎖することにより、内水氾濫が拡大する可能性など総合的に判断し、操作手順に基づき、ゲートを閉めないという判断を執っております。その後、降雨が観測されなかったことなどを確認しましたが、河川水位な

どが下降傾向、河川水位が下降傾向を見られたことから、ゲートを閉めないという判断をしております。以上が、10月12日から13日かけての諏訪排水樋管のゲートの操作に関する実態でございます。下段の黄色で着色してある太枠をご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。今回の浸水は、下水道管理者として内水氾濫を発生させることが無いよう、操作手順に従い、ゲート操作の判断を行ったところではございますが、我々としても、経験したことのない、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川水があふれたことによるものと考えております。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作等に関する検証を進め、同様な事態にまた発生しても、被害を最小化できる方策を検討してまいりたいと考えております。また、次の諏訪ー6ページには、諏訪排水樋周辺地域の地盤高図と浸水範囲等をお示しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。以上で説明を終わらせていただきます。

司会：

それでは、引き続き質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言の機会を確保したいと思っておりますので、大変恐縮ではございますが、お一人様概ね5分ということでお願いできればと思います。それから、本日は席を4列のブロックに分けております。ステージに向かって左の列の前のブロックから順に伺ってまいりますので、よろしく願いいたします。それでは、ご質問やご意見等がある方は挙手でお願いいたします。

質問者1：

今回の浸水被害より前に、2017年の10月23日にも同様に台風がきて暴風域に入り、大雨警報もかかり、自宅付近の道路が冠水することが起こった。それ以前にも、何回か台風が近づくにつれて道路が冠水する現象があり、そのときにも諏訪の水門のゲートを閉める判断について何かと問題があったと思う。2017年からの2年間、さらに遡れば以前も何度もあったと思うが、そういったところでの対策であったり、2017年から2年間で変更された対処方法やガイドラインはあったのか？

管路保全課長：

ゲートの操作に関しましては、ゲートを開けておくことで、河川の水位が上がると河川の高さによって溢水が発生するということはございます。ただ、ゲートを閉めることによって、降雨がある場合は雨水の排水先がなくなってしまうということがございますので、ゲートを閉めることによって、降った雨でまた浸水が発生します。そのため、判断は非常に難しいと感じております。ですので、そういったことがありまして、降雨がある場合には、原則としてゲートを閉じないという判断をしております、そういった運用でゲートを操作しているといったところです。

質問者1：

降水の有無で今まではゲートを閉めるとか開けるとか、降水中には閉めないとかおっしゃっていたガイドラインがあると思うんですけど、そうではなく今までもそうしてきた結果、道路が冠水する被害が起こっていたと思うんですね。なので、その降水だけの判断ではなく、前回もたしか多摩川の危険水位に達していたという記憶があるんですけども、そういったところの経験もふまえて、そういったルールであったりとか運用方法を見直すとか、そういう取り組みはあったのでしょうか。

下水道計画課長：

前回、2年前に台風が来まして、浸水被害あったという認識はもってございます。それを受けまして、我々のほうといたしましては、当時2年前ですと、今回ほどはあがってはいないにしても、氾濫危険水位の田園調布（上）で8.2～8.4m あがってございます。その中で、それを受けて、平成30年度なのですが、氾濫危険水位になっても浸水被害をできるだけ軽減するような方策についての検討に着手しました。実際に、1年間検討した中で、やはり、諏訪地区の地形の特性として、低いという分部がございまして、抜本的な軽減ができるという結論には達してございませんので、現在引き続き検討を進めている状況でございます。何がやはり難しいのかといいますと、やはり低いところの地区に仮にゲートを閉めたといいますまでも、閉めたところの上流域というのが、六ヶ村堀排水区は資料にも載せておりますが、200ha以上集水がございまして、そこで降雨がありますと、結果的には川の水ではなくて、今度は中の水がですね、溢れてやはり低いところに集まってきてしまうということがございまして、今後も引き続きですね、被害を軽減する方策について我々としては、検討していきたいと思っております。ですので、2年前の台風があって、決して何もやっていなかったというわけではないので、そのへんご理解いただければと思います。

質問者2：

先ほどの話の中で結局氾濫しないようにということではいろいろ方策をかんがえているとのことでしたが、内水氾濫が起きないようにゲートをしめないということなんですけども、内水氾濫が実際におきる雨量はどれくらいなのでしょう。氾濫の高さの基準はあるが雨量の基準がわからないので教えていただければと思います。

下水道計画課長：

内水氾濫というものの基準ということなのですが、我々の今、下水道の整備の中ではこちらの地区では1時間あたり52mmの降雨に対して、浸水被害が起きないようにということで整備を進めてきたところでございます。しかしながら、今回、やはり、多摩川の影響を大きく受けてございまして、むしろ、降雨が当然あるということも重要ですし、多摩川の水位がやはり上がってくるという、そのタイミングというかそういうところも重要でございまして、そういうものをやはり、総合的に見てですね、考えていかなければいけないのかなという風に思っております。

質問者2：

数値的な基準というのは特にないということですかね。判断の基準というか 10 月 12 日に 12 時 40 分に総合的に判断してゲートを閉めなかった後にどれくらいしてどのタイミングでゲートを閉める判断を再度検討したのか教えていただければと思います。

管路保全課長：

まず一番初めに、12 時 40 分の段階で 6.0m を超えて、田園調布（上）のですね、氾濫危険水位 6.0m を超えたことを確認した、その時点では降雨があり、台風もこれから上陸するというので、これから雨も強く降ると言う気象庁の予報もございまして、閉めないという判断をしております。その後ですね、パトロール等を行いまして、降雨の状況なり、河川の水位なりを確認しながら、注視したところでございます。23 時 10 分の段階で、降雨の恐れが無くなったことを確認したのですが、この段階で、河川の水位が、多摩川の水位が下降傾向にあるということを確認したので、ゲートを閉めずに、多摩川の水位が下がるのに併せて、内陸にたまった水が排出できるということで、そういった判断をしております。

質問者 2：

実際に 12 時 40 分の後に、そのタイミングでぎりぎり危険水位に入ってきたその後に、午後 3 時ごろ 4 時ごろ、道路が冠水しはじめたわけですが、その後高さが増していく中で一回閉鎖しないと判断した後は一切といいますか、開けようか、閉めようかという判断はしなかったということでしょうか。

管路保全課長：

諏訪ー5 ページ、こちらの上部の黄色で着色している部分に、判断基準が乗せてございます。この四角で囲ってあるところに、「降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等の場合には・・・

市民 2：

したか、しないかをまず答えてから説明してください。してないか、したかをまずはじめに言ってください。原則ではなく、したかしないかの質問なんだから、まずそれを説明してから先に言ってください。だから、したかしないかでしょ。時間を稼ぐんだったら、止めたほうがいいでしょ。したかしないかの説明をまずしてくださいよ。したかしないかの説明だよ。

管路保全課長：

判断はしております。

市民 2：

検討されたんですね。その後。

管路保全課長：

そうですね

質問者 3：

諏訪ー5 ページの活動記録についてちょっと質問なんですけども、14 時 10 分に移動式ボ

ンプ設置完了と書いてあって、15時58分に移動式ポンプの水没のおそれがあるため、付近で待機と書いてあるんですけど、まずこのポンプの設置場所がこの資料からぜんぜん読み取れないのと、その後、簡単に言うと水没の恐れがあるため、作業をやめたっていうことなのかどうかを聞きたい。

中部下水道事務所管理課長：

移動式ポンプの設置場所につきましては、諏訪ー3というページをご覧ください。諏訪ー3ページの、数字の①番の矢印の先端に、赤い丸が書いてあるんですけども、こちらに移動式ポンプというものを設置しております。移動式ポンプを設置しまして、運転をしておったんですけども、移動式ポンプも排水が追いつかないでですね、水位が上がってってしまって、トラックに積んでいるポンプなんですけども、職員も現地におってですね、車もちょっと水没しそうな、ぐらいの水位まで上がってしまったということで、一旦、退避したという状況でございます。

質問者3：

僕もそこまではなんとなく見てたんですけども、その後、消防車を使うような大きなポンプを使って排水溝にさして水をだそうとしてたように見受けられるんですけども、僕の見限りその作業を途中でやめられたという風に想定していて、職員の方に聞いても、水量が追いつかないからどうにもならないとおっしゃっていたんですけど、僕の思うにこのポンプをもっと早く準備することが出来たんじゃないかというところがあって、そもそも、もう水があふれているタイミングからポンプを広げる作業をやられていたんですね。これはもう見られていた方はずっと見ていたと思うんですけど、僕にしてみたらこれはもうあきらめて、僕たちは見捨てられたんだというように見受けられたんですけども、その辺はどう思われていますか？

中部下水道事務所管理課長：

移動式ポンプの準備は、前日から準備をしておりました。それで、中部下水道事務所の職員と、緊急工事業者のほうで、14時頃ですね、現地に行ってポンプを設置しました。それで、このポンプの運転をずっとしてたんですけども、それ以上にですね、水位が上昇するスピードが速くてですね、なかなか、排水効果がなかったというのは事実でございます。それで、職員も危険な状態、車も水没しそうになって、このままでは危険な状態だということで、一時、高いところに車を動かしたというのは事実でございます。

質問者3：

一時移動されたということですが、その後は、23時10分まではもう活動は特にされなかったということですか。

中部下水道事務所管理課長：

それ以降はですね、浸水のパトロールを行っておりまして、ポンプの運転は行っておりません。

質問者3：

その後、作業が出来る状況じゃなかったのか、そもそも準備が足りなかったのかどちらでしょうか。

中部下水道事務所管理課長：

移動式ポンプでの対応がもう不可能だということで、退去しております。

質問者 4：

先ほどから、丁寧な説明を頂いていますが、諏訪地区は低いので仕方がないんだと、毎回毎回、台風のたびにですね、水があがっていることは事実です。それでですね、去年のことなんですが、私個人的に、ある議員を通してですね、台風のたびに水があがって仕方がないと、それで、多摩川の河川の、毎回ね、台風であがった砂利、中州の砂利を、なんとか取ってほしいと、水位があがるのは当然のことなんです。ここ 40 年、私は世田谷に住んでいるときに、砂利をね、川の砂利をすくっているのを事実見てるんです。それを要請したんです。去年。議員を通して、何とかしてくださいと。砂利をすくうことによって 2 m、3 m の水かさ は助かる。そういう事実を、皆さんが承知の上で、理路整然と説明されているんですか。これを、今回、国会で通らなかった、その矢先の出来事なんですよ。みんな命をかけて、今回水のあがった事実はどうしようもない。あなたがたねきれいなことを説明していますが、まったくのね、対処ができてないのは事実でしょ。改善してるって言えるんですか。私たちはゼロになったんですよ、何もかも。それを、誰が責任をとるの。みんな同じ思いだと思いますよ。本気で考えてほしい。お願いします。回答をお願いします。

管路保全課長：

今回ですね、多摩川の水位が非常に高くあがってしまったということで、被害がとてもですね、でてしまったということは非常に、重く受け止めております。今後ですね、しっかりと検証をしてですね、また同じ、水位が上がったときにですね、これは、必ずもう、絶対なにも起きないという、大丈夫ということは分からないですが、被害はですね、少しでも抑えられるようにですね、しっかりとした検証をして、対策はですね、立てていきたいとは思っています。

質問者 4：

今の回答で、みんなが納得しますか。少しはおさえられるように。それが、行政ですか。完全に、区民の命を守るのが行政だと思うんですが、それは、私がまちがっておりますか。私の考えが。

施設保全課長：

はい。おっしゃるとおりだと思っております。ですので、しっかりと対策を立てていかないといけないということを、非常にですね、強く思っているところでございます。

市民 4：

いつまでにやるんですか、それは。期限を、期限を切ってください。

施設保全課長：

今ですね、来年の3月までにですね、検証の結果をまとめて、方向性をまとめていきたいとおもっております。

質問者5：

移動式ポンプを、川沿いの道に置くことはできないですか。高台ですよ。そうすると、撤去する必要がないと思うんです。状況によっては、あそこを通行止めにしてもやってほしいんです。

中部下水道事務所管理課長：

ポンプ排水につきましては、今後ですね、今、ご意見いただいている、通行止めをして、多摩川の堤防の上を通してですね、排水ができるように、今後検討して、警察と協議が必要なんですけども、今後、検討してまいります。

質問者6：

みなさんの思いを代理して、行政としてですね、今までのアカウントタビリティをもってですね、30年間の水のでてることに対して、どのように対応したかというのは皆さんに公開すべきだと思うんですね。あともう一つ、今回水門の開閉について私の聞いたのと違うものがありましてご質問したい。多摩川の水が出て、前回出たときに、鮎がとれたんですね。今回、鮎がとれたという話はきいてないので、やはり水門は閉められていたのではないかと思うんですね。ハザードマップをこの地域で定めていることに対して、今回の19号に対しての対策というものが、このような事態になるまでにどのような行動アクションをとられたのですか。それをアカウントタビリティをもって、時系列的に説明してほしいなと思うんですけど。この場でなくていいです。次回、もう一度開催して、皆さんに説明してあげてほしいなと思います。そうしないと、皆さん納得しないと思うのでよろしくをお願いします。今、この場で答えも求めません。次回開催して答えを出してください。

質問者7：

いくつか質問があるんですけど、タイムテーブルのところが多摩川上流の小河内ダムが放流開始、もうちょっと早く午前中とかに始まったと思うんですね。そうすると水位があがることは、もう雨量とかに関係なく事前からわかっていたことだと思うので、そういうことを行政がちゃんと把握して連携をとっていたのかということがひとつ。諏訪の資料の4なんですけど、川崎市が管理している部分が下水道管の部分でそこから先が川崎市の管理じゃないっていう風にちょっと私が問い合わせたときに言われたんですね。というのは、台風の翌日、私、多摩川を見に行きました。ここのゲートの先のところに大量の土砂がたまっていて、普段幅5mくらいで深さ2mくらいあるところにびっしり土砂がたまっていて、これじゃ水が流れなくて当たり前だという状況だったんです。それでまあ天気予報をみていて2日後3日後くらいにまた雨が降るって言うのがあって、こんな状況だった

ら、ちょっとの雨でもまた水が逆流してしまうからということで、そちらの下水道局に問い合わせをしました。そのときに返ってきた答えが多摩川の下水から先はうちの管理じゃないといわれたんですよ。いくら、その翌日に清掃が完了したと書いてありますが、そこの中をきれいにしたところで流れ着く先の土砂がちゃんととれていなかったら、少量の雨でもまたすぐ逆流してしまうのではないかと、私は結構気が気じゃなかったんですね。一週間後くらいに、また結構まとまった雨が降るっていうのもあって、千葉のほうに雨が、大雨が降られたときに、もしちょっとでもこちらのほうの地区にきてたら、また同じような被害があったんじゃないかなって本当に心配してました。そこを、そちらに問い合わせたときに、管理の方ものりくらの対応で、「どこが管理しているのかもちょっとわからないんですよ」というようなことをおっしゃってたんですよ。それじゃ本当に困るので、縦割り行政でここが市の管理、ここから先は国の管理、国なのかちょっとそちらも把握してなかったと思うんですけど、とそういうことじゃ困るので、その全部、川に最終的に水が全部流れ着くところまで、ちゃんと管理できるように、被害の翌日からちゃんと対応できるようにしていただきたいことがひとつと、あと先ほど、今後対応しますとおっしゃってたんですけど、この異常気象が続く中で、もう半年後ぐらいの6月には、また雨季がきて、大量の雨が降ることが予想されるんですね、そのときにたとえば、予算がついてないから、ポンプ車はまだ一台しかありません、ホースが短いですといったことでじゃ困るんです。だから、そこは、早急に特別な予算でも何でも組んでもらって、そもそも私いつも見えてポンプ車一台で対応できるのかなってところがすごい疑問なんですね。その先ほどの方もおっしゃってましたけど、ポンプ車の排水溝の行き着く先が、諏訪の信号の下のところに入っていて川を越えて堤防を越えて向こう側のほうに流しているわけではないんですよ。そうすると結局、下水管同士のやり取りをやっているようにしか見えなくて、もし水門を閉めるんだったら閉めちゃって、しっかり堤防を越えて川のほうに完全に水を流すとか、そのときもポンプ車1台だったりホースが短かったりするとできないと思うので、今の設備だと十分対応できるとは到底思えません。なので、そこはしっかり、今度の雨期の6月ぐらいまでの時期までに、ちゃんと予算をつけて、対応できるようにしていただかないと本当に困ります。この異常気象が続いている中でちょっとの1年後、2年後に何とかしますって言われるんだったら、ちょっともう、私たちが精神的に、こんな1年間に2回も水害にあっていたら耐えられませんので、しっかり対応してください。

下水道計画課長：

貴重なご意見、ありがとうございます。我々といたしましても、今回の浸水被害を受けまして、当然来年の雨期までにはですね、当然しっかりとやっていかなければ、いけないと思っていますし、そこで、活用できる予算とか、緊急対策の費用とかをですね、ポンプであるとかとり得る対応についてですね、検討をしてみたいと思います。ポンプにつきましては、やはり当然、ゲートを閉めてポンプを動かしていくんですけど、そこで、どういった形がいいのか。先ほど、やはり、高台に置いたほうがいいのではないかと、いう

ようなことも当然お伺いしてしますので、そういうところを踏まえながらですね、ちょっと検討をさせていただきたいと思っております。

質問者 8 :

今回の説明、こんなにたくさんの方に来ていただいているのですが、河川の水位があがった、多摩川の水位があがったから逆流しました。多摩川の水位って川崎市ではなんとかしようがありませんよね。管理してるのは国交省だし、仕方ないですよ、川崎市に責任はありません。ゲートをしめなかった。泥水が逆流した。だけど、ゲートをしめちゃうと内水氾濫がもっとひどくなって、雨水がでるところがないから、しめられませんでした。これも判断としては仕方ないよね。というのが今日の説明ですよ。川崎市に落ち度はありません。という説明だと思うんです。これは真っ赤なうそです。まずですね、今日頂いた資料の中で計算雨量が **52mm** と書いてあります。**2350ha** に時間 **52mm** の雨が降ったときでもちゃんと排水できるようにこの幹線の管路とか排水溝が設計されています。ということよろしいんですか。

下水道計画課長 :

多摩川の水位が、今回みたいに、ここまで上がって影響を受けた状態では、ちょっと今回の結果ようになってしまったわけなのでございますが、通常の状態ですと、こちらの1時間あたり **52mm** の能力あるということで、ご理解していただいかまわないです。

質問者 8 :

あのね、そんな嘘っぱち言ってもだめだよ。だって、今までさ。そんな水位があがってなくても、あるいは同じくらい水位が上がっても氾濫が起きているんだもん。内水氾濫は何度もおきているんだよ。しかも、今回はね、泥水が入ってるから被害がすごい大きくなっちゃったんだけど、その前、12日の午後。早いうちから、1時かそこらで、私はちゃんと時計見て、何メートルなんて計り方してないからわからないけども、そのころから、水はマンホールからあふれてはじめてたんですよ。いいですか。夕方くらいまでは水はきれいだったの。少なくとも、4時か5時ぐらいまで、見た範囲では、水はきれいだった。そんな水の中に入って私は作業を、土嚢を積んでたりしてたんだけど、足元が見えた。泥水じゃなかった。その後に泥水が入って来た。だから、今回の内水氾濫は2段階あるわけですよ。通常雨水が排水できなくて氾濫してしまった段階と逆流してきて泥水がどつと入ってきた段階、2段階だったんです。これを分けて考えないと、泥水、最終的に泥水入ってきたから、きたけどそれは多摩川の水位が上がったから仕方ありません。ゲートをしめるともっとひどくなる、ひどかったから、しめませんでした、という説明は全然駄目。納得できない。で、**52mm** という雨量に対して、実際の雨量は、5ページ見てください。この雨量だと時間 **20mm** もいってないですよ。どの時間帯とったって。ピークの時間帯とったって時間 **20mm** もいってないですよ。10mmくらいです。ほとんど。これでもおきているわけ。ということは、計画 **52mm**、時間 **52mm** の雨量に対して、排水できます、という

設計なのかどうかは知らないけれども、全然対応できないですよ。自然流下ですよ。川崎市のほかの地区ではポンプで排水しているところもありますよね。全然対策が違うんじゃないの。さっきから、ポンプ車がどうのこうのって言うけど、この樋管のさ、大きき 2m×2m ぐらいの樋管に対して、たった 100 か 150mm ぐらいのポンプの能力で、何十台ポンプ車もってくりゃ排水できるの。できっこないでしょ。しかも、土手という国交省が管理しているところをまたいでポンプ、ホースを渡すなんてことは、たぶんあんな緊急事態だって、国交省との連絡がうまくいなくて、そんなうまく行くことないですよ。しかも、そんな揚程があるようなポンプないでしょ。6mから7mの揚程で、あげられるポンプなんてポンプ車ってないはずですよ。ということは、もっと大きな、しっかりしたφ600とかφ700のポンプを何台も、あの近くに置いて、設置して、建設して、無理やり吐き出す、という方針にしない限り、何度もこれおきますよ。で、今回の説明の多摩川のせいです。ゲートは占められませんでしたっていう説明の仕方は非常に不親切というか、インチキだ。そんな説明は納得できない。

管路保全課長：

今、いろいろとご指摘を頂いたところでございます。まず、52mmの話がございました。これは、幹線、こちらに書いている幹線というのが52mmで整備されているというのは、最初にですね、内陸に降った雨がこの幹線を伝って、多摩川に向かって行って、多摩川の水位が高くなると、多摩川の水位との押し合いみたいな感じですね、最初は内陸の水が溢れたというのは、確かに現地で見られたと思うので、そのとおりだと思います。その後、河川の水位が上がったことによって、河川の水位が強くなって、多摩川の水が逆流してきたという現象が、今考えられているということでございます。ポンプ車の話なんですけど、今あるポンプ車ではですね・・・

質問者8：

ポンプ車なんか整備しなくていい。無駄だろ、そんなことは。そんな程度じゃ排水できる量じゃないだろ。計算しろ、ちゃんと。

下水道計画課長：

おっしゃっているように、こちらの地区について、以前、2年前の台風を受けて検討したときの結論として、この地区の雨を、抜本的にやろうするとですね、おっしゃるようになりかなりの敷地とポンプ施設が必要になります。計画的な話として、長々期には、そういうところ目指して、我々としても取り組みというのは必要ではないかという風におもうんですが、すぐ、これから、今回こういった台風が来てしまったなかで、どうしていこうと、いうなかでいくと、やはり、ここについては段階的に考えていくしかないのかなと考えております。当面、次の、本当に、出水期までにできること、ということというのをきちっと整理してですね。それが、それがポンプ能力の増強であるとか、その次の段階で、どういう風にやっていくのか。溢れそうな水をどこかに貯めていくのかとか、どういう風に流していくのかとか、そういうところというのをやはり今後検討はしていかなければならな

いなど考えてございます。ですので、間違いなく、浸水を限りなくゼロにするというように考えていくのであれば、かなり難しくですね、費用と長い期間がかかるとはという認識は持っておりますので、ただそういいながらも、少しずつ良くなるようにですね、しっかりとやっていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

質問者 9 :

資料諏訪-6、3行目。「下水管きょ内で逆流の発生が確認される」とありますが、これは、雨水の内水氾濫があったということでしょうか。

管路保全課長 :

はい。このですね、丸印のところのマンホールで、多摩川からの矢印の方向に、下水はですね、このオレンジの丸で書いてあるところに矢印があると思うのですが、矢印とは反対の方向に流れて、多摩川のほうに行くというのが下水管の流れなんですけど、今回確認したところ、机上ですが確認にしたところ、逆の、多摩川の水位によって下水管の向きとは逆の方向に流れがあったということが、想定されるということです。

質問者 9 :

その下の行に、「河川水の逆流による浸水が発生したものと考えている」と書いてありますよね。河川水は逆流した。雨水は本来川に流れていくはず。でも、川から河川水が戻ってくるということは、つまり雨水も川にいていないということですよ。違いますか。そうしますと、諏訪-5、資料諏訪-5 四角い黄色の一番下。「降雨がある場合や大雨警報が発生されている等降雨の恐れがある場合は諏訪排水樋管ゲートを全開にする」なぜならさっきおっしゃいました、「雨水の内水氾濫をさけるため」とおっしゃいました。結果、排水ゲートは開いても閉まっても、雨水の内水氾濫はあったと認識していますが、それでしょうか。

管路保全課長 :

結果的に、河川の水位が上がって、内陸に降った雨が多摩川のほうに流れて行かなかったというのは、そのとおりだと思います。

質問者 9 :

それはつまり雨水ですよ。さっきおっしゃいましたよね。雨水と汚水はわかれているとおっしゃいましたよね。まあ、汚水も戻ってきたのかもしれないですけど。私も作業してましたけど、透明なきれいな水をくみあげて作業してましたので雨水と考えられます。つまり雨水はあけようが閉めようが戻ってくるんですから、その対策を考えてください。それからもう一点。これは確認です。中原で排水ゲートを占める作業をしようとして本来1分で終わる作業が12時間かかったとニュースで見ました。これについて今後、諏訪地区で排水ゲートを閉めようとして、同じことが起こったら、私たちは助かりません。それについてどうお考えですか。

管路保全課長 :

中原の方の排水樋管で、ゲートの操作をしたときに、何かしらの要因でゲートが動かさなかったのは事実でございます。原因なのですが、構造的にはハンドルを回すと構造的には降りてくるというゲートなんですけど、何かこう、流木があったりですね何か挟まって、何かの要因でこういった形になったということは考えられます。これについてはですね、今、手動ゲートでございますので、今後はこのゲートで再発することの無いように、こういったゲートがいいのかとそういうことを踏まえて、ゲートの構造を踏まえて、検討してまいりたいと思います。

質問者 9 :

それは早急にお願いします。

質問者 10 :

全開にする条件はわかったんですが、閉める条件はなんですか。今日の読売新聞の川崎市版にですね、たとえば、都だと逆流が確認されれば閉じるということにされているようなんですよ。国土交通省京浜河川事務所管轄の6箇所ですか、これを11日のうちに閉鎖した、という風にしてあるんですけども、こういう対応とあまりにも違いまして、今回頂いた資料にもポンプ車のことは書いてありますが、この諏訪排水樋管のですね、ゲートの開け閉めのことには何もこう実験してみたとか、普段、たとえば年に一回くらい開け閉めしてみてるとか、そういうお話が全然無いんで、あともうひとつ強調したいのは、内水氾濫の水と本流から逆流してきた粘土を含んだ水ではですね、家財の被害状況が大変違います。壊れて動かなくなるとかですね、そういうものは主に粘土が影響しているんじゃないかと思うんですよ。これは、あの、鮎がいなかったということもおっしゃって、まあそんなのかなと思いますけど、粘土というのはそんな、雨水とか住宅地の庭とかの、なんだから、そこに降った雨だけで、あんなに粘土が数時間後に水が引いた後に積もるのかなと思ってね。私は、閉まってなかったんだと思うんですよ。閉めたり開けたりする、普段から操作の訓練とか、今、何か流木が引っかかってとかありましたけど、多分前後にそういうのを避ける網とか当然あるんでしょ。そういうのがあるんだったら、細かいことを憶測で言うんじゃないくてですね。この資料にですね、ゲートの開け閉めについての実績とか、そういうのをちょっと書いてほしかったなと思ひまして、次もしこういう機会があったら、ゲートのことについても記述して、みんなに教えていただきたいと思います。

中部下水道管理事務所管理課長 :

ゲートの開閉の訓練等は、年に数回行っておりまして、地元の町内会長様も一緒にご参加いただきましてですね、諏訪排水樋管ゲートのポンプ設置訓練とそれ以外には、ゲートの操作訓練を中部下水道事務所の中でですね、毎年行っております。

市民 10 :

訓練はいつやったの。記録無いの。町内会長が立ち会ったって言ったけど、俺役員やってるけど大丈夫。聞くよ、町内会長に、いつやったの。年に数回っていつだよ。いつだよ。

中部下水道管理事務所管理課長：

すみません。正確な日付は今分かりません。

市民 10：

そんなんでは答えるなよ。じゃあ、いつやったと言えよ。年間に何回やってますって、数回やってます。そういうあいまいなこと言っちゃいけません。私は町会役員をやっています。町会会長もすぐ呼びますよ。町会長立会いのもとって今いいましたよね。水門の開閉のテストやったって言いましたね。町会長とやったって言ったね。

中部下水道管理事務所管理課長：

諏訪の町会長は、ポンプの設置訓練と一緒にやっていただきました。

市民 10：

諏訪町会長は知ってますよ。じゃあ、記録をちゃんと出しなさい。いつやったか。記録がないなんて行政にありえない。あいまいすぎる。記録が無いとか言わないほうがいいよ。

市民 10：

ゲートを閉める基準は。

管路保全課長：

ゲートを閉める基準というのは明確にですね、こういう場合に閉めるというのはございません。総合的に、河川水位 6m、この段階において、降雨量、気象予報、雨域の移動状況、台風の進路予測、多摩川の水位をですをね、等々、ゲートを管理している事務所で、それを、状況を注視して、判断する。開閉の判断をするとしております。

市民 10：

その中に多摩川からの逆流はさせないっていうのを、第一項として入れてくださいよ。そっちのが重要だよ。雨水で濡れた分には、後の復帰が楽なんだよ。全浸にしたって、乾かせば、使えるようになるものがいっぱいあるんだよ。泥が、泥水が入って、全部入っちゃうと一切使い物にならないんだよ。だから、その中の判断に、逆流はしそうだったらもう閉める、て言う風にしてくれよ。

管路保全課長：

今ですねゲートの開閉については、今後検討をしっかりと、検証します。今のご意見をですね、踏まえてですね、それが本当にいいのかどうかを踏まえて、ちゃんと検証してまいりたいと考えております。

質問者 11：

要望です。ここに 1.3ha ですか。それで、2m。そうすると、水の量が、これで計算できますよね。それを、排出するのに、必要な、強力なポンプを、何十台も何百台でもいいですから、きちっとそろえて、今後、そういう水が出る、ということを一切なくなるように、早急にやってください。

下水道計画課長：

今頂いた、ご意見の中で我々といたしましても、今後やっていく対策としてですね、何十台も持つてはこれませんが、少なくとも、今のゲートを閉める部分での検討であるとか、あるいは、ゲートをどういった状態に閉めるべきなのかという今回のことでの検証であるとか、あるいは、当然閉めた場合につきましては、住民の皆様への周知もしていかなければならないことも考えますので、そういうところでの検討とかですね、あるいは、たまたま、その水について、当然それを軽減するためには、多摩川のほうへ出していないといけませんので、そこについての、どういった形での、基本的には、ポンプに関連してくる部分ではあると思うのですが、その部分をどういった形でできるかというのは、検討してまいります。

市民 1 1 :

ポンプ車とかゲートの開閉だとか、あまりお金がかかるってことで逃げようとするなよ。きちんとしたポンプ場を作れ。それしかないよ、解決策は。

下水道計画課長 :

長々期的な対応といたしましても、我々としても、ポンプ排水区を考えていかなければならないということを、今回の事態を受けて、まず、この被害があったこと事態は、本当に大変というか重く受け止めているは事実でございまして、ただ、先ほど申し上げましたように、ポンプをすぐ造るということは、すごい費用と時間がかかることとございまして、ただそうは言いながらも、長期的な視点でですね、検討に入れてですね、検討して是非できるようにやってまいりたいというように考えております。

質問者 1 2 :

具体的な数字で、お願いしたいんですけども。諏訪-3の資料で写真が写っておりますね。このときの、1番2番3番の、この時間当たりの上昇率っていうか何cmくらいあがったんですか。水位が何cmくらい上がりました。これは、写真を撮ったっていうのは、こうやってやりましたって言う証拠だけであって、水位がどれくらいあがったんですか、ここの場所で。1番の場所で16時26分には何mだったんですか、ここ。わかりませんよね。具体的に、総合的に閉める閉めないっていう判断をするときに、この時間当たりの上昇率と雨量を計算したときに逆流してるかしてないかわかりますよね。あなたたち頭がよいんですから、わかりませんか。質問です。わかるか、わからないか聞いてるんですけど。わかりませんか、わかりますかです。何cm増えたか1時間あたり何cm増えたか。

管路保全課長 :

申し訳ありません。この写真の時刻での水位の観測は・・・

質問者 1 2 :

じゃあこれ何のために写真撮ったんですか。ただ水があがってますっていう証拠ですか。何cmのときだからって言うことの証拠が無ければ、何の意味も、この写真の意味はなんなんですか、そしたらこれ。写真を、写した意味はなんなんですか。我々が、火災保険のと

きに、何 cm まであがりましてメジャー置けて言われてますけど、これ当然、メジャー置いてないからわかんないですね。当然これが 1 時間後に 50mm 上がってれば、雨量が 20 ミリであれば当然逆流するってことは推定できますよね。

市民 1 2 :

そんなことない。ほかから流れくるんだから。

質問者 1 2 :

いや、逆にそれだけじゃないですけど。誤差があればわかりますよね。少なくとも、測ってないならそれはいえないですね。客観的に。だから、客観的にあげますさげますって言うけど客観的なデータが全然示されてない。あげなかったっていう。あげるさげるの話がでてましたよね。水門をしめるっていうためには、種々のデータにもとづいて、行うっていう事を今説明されましたよね。そうするとその種々のデータというのは、どういうパラメータのもので、どういうふうなセンサーを使ってやってるのかっていうことを答えてもらえますか。どこの側溝上で、どこでどういう形で、測定機器を使ってやっているのかということをお答えいただけます。

中部下水道事務所管理課長 :

ただいまのご質問ですが、総合的に判断する、どのように判断するのか。現地での降雨量や・・・

質問者 1 2 :

だから現地の降雨量って言ったってこれ高さわかんないでしょ。水位が。

中部下水道管理事務所管理課長 :

高さは測っておりません。

質問者 1 2 :

はかってないでしょ。だから、どうやってそれがわかるの。

中部下水道管理事務所管理課長 :

現地です。マンホールの中の水位をですね。ずっと計っておりました。2 箇所のマンホールと多摩川の水位。

質問者 1 2 :

そこね、多分、必ず土砂が入ったときにセンサーがおかしくなっているはずだと思いますけど。それは何時ですか。

中部下水道管理事務所管理課長 :

センサーはなくてですね、直接、あの人間がスタッフを持って。

質問者 1 2 :

だって入れないでしょ。だって、排水ポンプを引き上げるくらい危なかったんでしょ。どうやって入ったんですか。だから、測れるけれども排水ポンプは設置できないっていうのは、それ矛盾じゃないですか。

管路保全課長 :

あの、すみません。先ほどの総合的な判断。ゲートの開閉ですね。先ほどのいろいろなパラメータがという。それはですね。降雨量、これはですね。こちらに書いてあるのですが。

質問者 1 2 :

降雨量はこれだけでなく、アメダスの降雨量もでてますよ。ちゃんと。

管路保全課長 :

高津区、市の高津道路公園センター・・・

質問者 1 2 :

それはどこにあるんですか。低い低いと言っている諏訪地区に置かれてるんですか。それは。

管路保全課長 :

参考として、道路公園センターの住所はちょっと、

質問者 1 2 :

住所はちょっとって、今、諏訪の話をしてるんですから。それでは諏訪の水位はどこで測ってるんですか。そしたら。だから、絶対にパラメータを言ってるだけで、具体的にどこでやってるかっていうのを示せないってことは、やってないってことですよね。だって、おたく保全課長なんだからそういうことをわかっててここにきてるんでしょ。

管路保全課長 :

降雨の確認は、高津道路公園センターにある雨量計で・・・

質問者 1 2 :

だからそれは、諏訪地区に置かれてるんですか。低い低い諏訪地区に置かれてるんですか。

管路保全課長 :

諏訪地区の雨量ではございません。

質問者 1 2 :

置いてないんでしょ。置いてないんだったら、ここの雨量なんてわかんないじゃん。

管路保全課長 :

あのですね、資料の・・・

質問者 1 2 :

だって、諏訪の、その水門をあけるか、あけないかの判断なんだから、諏訪地区が、どのくらいあるかっていうパラメータがわかんないや、できないよね。

管路保全課長 :

諏訪-4 という、こちらの図面にございます。緑色で囲っている。

質問者 1 2 :

囲っているどこですか。

管路保全課長 :

左上の図です。

質問者 1 2 :

で、一番リスクが高いのは、この地区で一番低い低いのはどこですか。まさか一番高いところにおいてあるとこの話してもしょうがないと思うんで、まさか高いところではないですよ。

管路保全課長 :

このですね、緑色で囲ってあるエリアに降った雨が、諏訪の排水樋管のところに集まってくる。ということなので・・・

質問者 1 2 :

いや、だから、諏訪の排水管に集まってくるけれど。諏訪の低いところに水が溜まってますよって言ったじゃないですか。一番初め、冒頭で。

管路保全課長 :

なので、このエリアの中に降った雨が全部ここに集まってきますので、このエリアの中の降雨を参考とするために、道路公園センターの雨量計を参考としてるということでございます。

質問者 1 2 :

それはいくつだったんですか。

市民 1 2 :

5 ページにグラフ書いてあるじゃないか。5 ページに。

質問者 1 2 :

10 分あたりいくらって書いてありますよね。そうすると、このさっき言った 1 番 2 番で写真で撮られているところの、水位と考えたときに当然、雨量よりも、水位が上がっていれば、当然、逆流が起こっていることですよ。

市民 1 2 :

水位ってのは広いところに降った水が溜まってあがるわけだから、そこ箇所の雨量だけ決まんないはずだ。

質問者 1 2 :

だから、どうなんですか。決まんないですか。

市民 1 2 :

決まんない。

質問者 1 2 :

いや、おたくに聞いてんじゃない。

管路保全課長 :

雨量計を、この緑に囲っている中に、いくつもずっと置いているわけではないので、このエリアの中に、どのくらい降ったかという言うのはですね。はっきりと分かるわけではありません。

質問者 1 2 :

じゃあ、少なくとも、そしたら、この 1 番 2 番のところの雨量はどれくらいだったんですか。1 番 2 番 3 番であった写真のところの雨量は。その時の雨量はどれくらいだったんですか。

管路保全課長 :

そこに降った、雨量計を設置しておりませんので、この写真の分については。

質問者 1 2 :

そうすると、逆流か逆流で無いかっていうのは、結果がでないといけないシステムだっ
てことですね。

管路保全課長 :

あの、水位については目視。はい、現地でパトロールしているときに降雨があるかどうか
も、現地で確認しておりますが。

質問者 1 2 :

まあ、私だけで時間とっちゃってあれなんで。ただ全然、数字に基づいた話が、全然な
されてないですよ。さっき言ったように、さっき言われたように、じゃあ、水はこれ、
ここの地区だけでどれくらいの量、流れ込んだんですが。数字ですよ数字。どれくらい流
れ込んだんですか。で、あと、来年の 3 月までに検証します。でこれ来年度の、雨季まで
には、ある程度のもを設置してもらえということなんですね。対策は必ずとるって
いうことですよ。

管路保全課長 :

来年の 3 月までに検証して・・・

質問者 1 2 :

だから、検証しただけじゃあ、また一年間は我々はリスクに晒されるということですね。

下水道計画課長 :

その点につきましては、我々としても、できることはやっていきたいというように思っ
てまして、検証自体は、今目標といたしまして、令和 2 年の 3 月に検証もしていくんです
けど、当然、来年の少なくとも、今は、渇水期ということですが、6 月、梅雨なりまた台
風の時期がきますので、そこまでには、できうる対策というものを、やってきたいと思
います。ただこの、今、この場ですね、具体的にまだ何ができるとかっていうところま
では、ちょっとできてないので、申し訳ないんですけど。

質問者 1 2 :

わかります。これで、私は今、質問を終わりますけども、文書でおたくたちのところ
に出そうと思います。そういうことで、皆さんも、いろんな質問がここで出た場合には、ど
こが文書を受け付ける場所かだけは、決めてください。いや、最後までに決めといてくだ
さい。そこが、責任を持って回答するってことだけ。これはお願いです。最後に、すいま
せん。

質問者 13 :

ゲートの開閉のことを、先ほどから言われてますけども、この総合的に判断したのが、まず原因の一番ですよね。誰が決めるんですか。総合的にって。基本的に、こんなの全閉で閉めちまえばいいじゃないですか。簡単でしょ。そうすれば、六ヶ村掘の、下水の範囲だけの雨量に対して、どんだけポンプが必要かってのは、計算できるわけでしょ。受け持ち面積分の雨量を、全部を吐ければ良いんだから。逆流してきたら、どんだけのポンプが必要かなんてわかるわけじゃないじゃないですか。逆流させちゃいけないんですよ。だから、全閉が基本なんですよ、こんなもん。閉めちまえばいいんですよ。で、降った雨の分だけの、計算したポンプ量があればいいんですよ。だったら、一番良いのは、第三京浜のところにパイプ抱かせてもらって、橋の真ん中辺で、放流すりゃ良いんですよ。そしたら、土手壊さないし。だから、第三京浜の橋の袂にでかいポンプ室を造ってください。だめなら、●●●（事業者名）のでかいポンプ、借りるでしょ。いろんな市町村で借りれんだから。契約すりゃ良いだけの話でしょ。持ってきてくれますよ。●●●（事業者名）が。どでかいポンプを。それで、電源はね、橋の両方からとりゃいいんですよ。川崎と世田谷から。どっちか停電なっても、どっちかの電気でポンプまわせんだから。そういうことをなんかね、検討していただきたいですね。それと、今回の浸水があったんで、下北沢の友達と、こう、話したことがあるんですけど。下北沢には、北沢川っていう目黒川に合流する川ありますけど、あの辺のマンションはみんな地下は、もう貯水槽、みんなでかいの持ってますよ。川の水が上がると、その、マンションの地下の貯水槽へみんな流し込むと。それで、時間差で稼いでる。それは、何年前だと思いますか。もう、目黒川流域の水害の対策の協議会で、10年前にもう方策をきめてるんですよ。10年前です。しかも、想定雨量は100mmなんだよ。100mm。52mmじゃないの。降雨強度はみんな100mmで計算してんですよ。もっと、真剣に考えてくださいよ。

下水道計画課長 :

貴重なご意見ありがとうございます。今、お聞きしたような内容を踏まえてですね。しっかりやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

質問者 14 :

今回も移動式ポンプが出動したとのことなんですけども。2年前の10月の時にはですね。移動式ポンプ以外に、すぐ10mほどの脇の、マンホールからべつのホースを出して排水をしたと思うんですね。今回のはその、それを、諏訪水中ポンプ操作盤っていうんですか。今回、まったく動いてなかったようなんですけど。今回は、どんな感じだったんでしょうか。ちょっと教えてください。

施設保全課長 :

今のご質問ですが、諏訪の仮排水所というのがですね。資料で言いますと、諏訪-3の

図面の真ん中の赤い印のところですね。水深約 2.0m と書かれてますが、そこの道路下に諏訪の仮排水所というのがございます。この 10 月 12 日の時にはですね、仮排水所は当初は正常に動いておったんですけども、17 時過ぎにですね。この辺、一帯が浸水をして。仮排水所のポンプを動かす制御盤というのが地上部にあるんですけども、そこまで、水が入ってしまって、そこでポンプが停止したという状況になりました。その後、停電もこの地域で起きてございます。

市民 14 :

どうして、重要なことが、なんで一切書かれてないんだ。この資料に。

施設保全課長 :

資料には、確かに・・・

市民 14 :

どうして、そういうことを隠すんだ。

施設保全課長 : はい。申し訳ございません。

市民 14 :

そのポンプ場の容量はいくらなんだ。

施設保全課長 :

はい、そこにあるポンプはですね。口径 200mm のポンプが入ってございまして、1 分間に 6m³ の排水能力があるポンプでございます。

質問者 15 :

前々回の方の、お話にちょっと近いんですが、隣の横浜市の内水氾濫の対策についてのご認識をお聞かせください。

下水道計画課長 :

認識というのは、横浜市の浸水対策というところなんでしょうか。

質問者 15 :

私、数日前にニュースで見たんですけども、横浜市の内水氾濫に対する対策というレポートが出てまして。それを認識されているかどうか、横浜市がどんな取り組みをしているのかどうか。

下水道計画課長 :

当然、横浜市さんも大都市ですので、そういう浸水ですとか、ほかの下水道事業の政策とかについても、意見交換をしているところでございます。横浜市さんですと、私もつい最近、またテレビのほうでも見ておるんですが、やはり、地下にですね、そういう幹線みたいなものを造って対策をされてるといふところも聞いております。そうですね、ほかには、いろいろな対策もあって。そうですね、主に、やはり、内水を排除するためには、やっぱ、そこに貯める分、必要なものをなんか貯める分を設けていくという考え方もございますので、そういうところで、そういう施設も設けたりもしてるという風に伺っております。

質問者 15 :

幹線で言いましたけども、私がニュースで、ちょっと記憶、定かじゃないんですけども。見たのは、地下に直径 8.5m の円、丸いトンネルがあって、それが 21km ありまして、それが最終的に海のところまで行ってまして。そこにすごい大きなポンプがあって、それで排水するという施設でした。で、私、今まで話ずっと聞いてたんですけども、川崎市さんの上下水道様のお話だと、ゲートの開け閉めとかの、そういう感じのテクニックみたいな話をしてたんですけども、お隣の横浜市が、ここまでの設備を、もうすでに構築されていて、内水氾濫の、まあ、41 万 t かなんかを貯められる施設だったと思うんですけど、この前の台風でも 7 万 t ぐらいだったって聞いてるんですよ。私、ここの地区に生まれて 50 年たってるんですけども、ちょっと固有名詞だして申し訳ないですけど。諏訪幼稚園あたりは、私が小さいときから水が付く地域で、川崎市は多分、認識してたと思うんですよ。でなぜ、横浜市がその施設造るのにすごい時間かかると思うんですよ。費用も。でも、私 50 年、住んでるんですよここに。で、水も見てるんですよ、側溝とかでてる所を。何で、川崎市は、こんななんか、すごい稚拙な移動式ポンプとか、門の開閉とか、そんなので、いまだに対処してるんですかね。川崎市も小さい街じゃないし、一級河川である多摩川を擁している大きな都市じゃないですか。でもなんで、今までそういうことを全然、全然というか、そこまで差が出てしまっていて、いまだに水が付いてて、今回もっとおっきな被害が出てしまっていて。先ほどおっしゃったけど、バックウォーターして、内水氾濫も起きてるわけじゃないですか。だから、門の開閉とか移動式ポンプじゃ、この未曾有の、これかの異常災害、対処できないとおもうんですよ。だから、もうちょっと真剣にやってもらわないと、この 50 年ぐらいサボタージュしてるように、私見えてしまうんですよ。しっかりやってほしいと思います。

下水道計画課長 :

今のお話というのは、横浜市の新羽末広幹線といいまして、地下にですね、今おっしゃってたような施設が、できた。我々も、長期的な視点ではですね。今回の件も受けておりますので、その辺を踏まえながらですね。どういったことができるかという、時間とお金はかかるんですけど、しっかり考えて行きたいという風に思っております。

質問者 16 :

今までのお話を聞いてですね、一点だけよく分からない。理解ができないところがあるので、お答えいただきたいのですが。ゲートの開閉のタイミングについてなんですけども、12時40分の時点で、総合的に判断して締めませんでしたと、そのままずっと閉めずにいたわけですよね。この縦断図の水位の高さを見ると、ゲートの高さが 6.2m かなんかですよ。で、危険水位が 6.0m。もうこの時点で、すでにもう余裕がない。そのまま降り続けて、多摩川の水位も上がってる。そうすると、水は当然、高いところから低いところへ流れるものですから、どうしても、なぜゲートを閉めなかったのかという部分が理解できな

いんですよ。なんていうんでしょう。まあ、その緊急時でもう人がそこに配置できなかったのか。それとも、逆流が一番問題だとおもうんで、なぜ、閉めることができなかったのかというのを。すみません、もう一度ご説明お願いしたのですが。

中部下水道事務所管理課長：先ほどもご説明を後藤のほうからしてる内容を、繰り返すようになってしまいうんですけども。その時点で、市内で降雨が継続しておりまして、大雨警報が発令されておりまして、今後、台風の本体が関東地方に上陸するということと、気象庁の予報で、今後 50mm～80mm 程度の大雨が予想されるという予報があったことからですね。ゲートを閉めることによって浸水がより広範囲になってしまうと考えまして、ゲートを閉めないという判断をしております。

質問者 16：

すみません、私、聞きたいのはその後も、多摩川の水位がどんどん上がってるんですよ。もう、あがっていけば逆流することは、子供でも想像できることだとおもうんです。たとえば、夜、夕方の 5 時だとか、夜の 8 時の時点で、閉めるっていう選択は検討されたりとかしなかったのですか。

中部下水道事務所管理課長：

降雨がある場合は、ゲートを閉めないという、そういった判断の基に、ゲートを閉めない、8 時の段階では判断をしておりました。

質問者 16：

それは基本的なルールとしてそうなってるということですよ。もう一回言いますよ。水。多摩川の水は、ゲートの入り口よりもあがってるわけですよ。水は、高いところから低いところに行くのは当然なんですから、もうそれが昼の 2 時。3 時の時点で、もう閉めてれば。変な話、浸水したとしても、床上浸水を起こしたとしても、雨水だけの浸水で住んでたんですよ。

市民 16：

諏訪が泥だらけになってもかまわないという判断なんだな。

質問者 16：

なぜ、昼の 3 時とか、夕方 5 時にゲートを閉めるという選択をとらなかったのですか。

市民 16：

小河内がさ、大量放水したのは 6 時だぞ。6 時。前日から放水してんだよ、小河内は。2 時から放水してんだよ。小河内ダムは。毎秒 750m³ も流してんだぞ。6 時から。水位があがんのは、当たり前だろ。750m³/秒ってどんだけの量か知ってんのか。備蓄タンク 20 杯分だぞ。一時間当たり、20 杯もダムから流すんだぞ。小河内ダムだって、浸水してないだろ。多摩川もだって、底があがっちゃてんだよ。もう。今回の多摩川だって、30cm～40cm 川底があがってるでしょ。土砂で。砂利とってないんだから、あがるよな。じゃあ、来年また同じ量が降ったら、今度は溢れるよ。あと 10cm しかなかったんだから。100 年前の土手が、あと 10cm でもう持たないだよ。100 年間、何もやってこないから。100 年前の

土手だぞあれは。

市民 16 :

そこ川崎市の管理じゃないでしょ。この人たちじゃ、答えられない。

下水道計画課長 :

多摩川の川底の河床の件につきましては、直接川崎市は管理してませんが、京浜河川事務所、国が管理してますので、我々のほうからですね。こういう住民説明の場を持って市民の皆様のご意見がきてますので、そこはしっかりお伝えして、できることは、我々として、市としてできることはやっていきたいと思えます。

質問者 16 :

ちょっと待ってください。排水口よりも多摩川の水位のほうが上がってんだから、逆流するなんて、誰でもわかるじゃないですか。なんで、夕方5時とか6時の時点でゲートを閉じなかったんですかって聞いてんですよ。雨水で。浸水したって。変な話、まだ我慢できるんですよ。天災だからしょうがないってなるんですよ。だけど、逆流が防げたのに、防げなかったのが納得いかなくて、たとえば、夜8時で閉めてれば、もっと被害は軽減できたかもしれないですよ。

管路保全課長 :

判断としましては、12時の気象庁の発表で50mm以上の雨が降るという予報がありまして。5時48分の発表でも、同様に50mm以上の雨、局所的には80mm以上の雨ということが想定されておりましたので。市としては、多摩川の水位が確かに高いのはそうなんですけど、それによって、内陸に降った雨が強くてですね、そちらの範囲が広いのか。それはですね、なかなか難しい判断であったというところで・・・

市民 16 :

要するに判断を間違ってたてことですよね。

管路保全課長 :

今後は、今回の事象も検証して、ちゃんとですね、しっかりと検証していくということで・・・

市民 16 :

検証の結果はいつでるんだよ。

市民 16 :

逆流してもいいと思ったんだろ。

市民 16 :

だから、多摩川の堤防を決壊させないために、水門を閉じれないってことを言ってると思えませんが、どうなんですか。

管路保全課長 :

そういうことでは、ありません。水位が高いことで、内陸に降った雨で水位が上がってしまうことで、どちらのバランスがということが、その都度、その都度の判断が難しいと

ということがございますので。この手順ですね。

市民 16 :

でも、さっき雨量わかんないって言ったじゃん。だから、できないからって測定してないっていったじゃん。

管路保全課長 :

それは、現場でとっていなくて、参考として道路公園センターの雨量を確認していると言うことと、気象庁で、どういう風に今後の予測があるかということを確認してるということでございます。

質問者 17 :

諏訪-4の写真からご質問させてください。樋門、樋管ゲートというところで全景写真①というのあるんですけども。これ、樋管ゲートの開閉に関しまして、動力源はどういう形になってるのでしょうか。

中部下水道事務所管理課長 :

動力はありませんので、手動のゲートになります。

質問者 17 :

手動ということなんですけども。では、これは、全景写真②を見ていただくと分かるんですけど、水位がもし、土手の頂上近くまで来てしまった場合に、どういう形で、人命にかかわってきますけど、そういう時はどうしたらいいんですか。その可能性は否定できない。

中部下水道管理事務所 :

氾濫危険水位を超えて作業する職員の命も危険に晒されると言うこともあります。

質問者 17 :

そうですね。人の命が関わってくるんですよね。できないことになっちゃうと思うんですけど。そうすると、今度、諏訪だけじゃなくてこちらのほうでも、多摩川決壊する可能性が出てきてしまうので。

市民 17 :

ないないないない、それはない。

質問者 17 :

ない？

市民 17 :

ゲート閉めたって、多摩川は決壊しません。

質問者 17 :

まあ、樋管ゲートていうのは。多摩川が決壊しないのであれば、それでそれが一番いいですけど。もしこれ、樋管ゲートを。今回は結局、人の判断によって、内水氾濫とかそういう形になってるので。結構これ、樋管ゲートて言うものに関してはもう限界が、構造自

体の欠陥があると思うんですけど。樋管ゲートだけじゃなく、やっぱり先ほど話していた横浜市のように、対策をしっかりとしてもらわないと、今回また、この先の増水対策で対処できないのでは思いました。そちらの対策のほうよろしくをお願いします。

管路保全課長：

ゲートの構造につきましては、諏訪-4 のですね、下に図面が、縦断図画ありまして。多摩川 のですね、この地点での計画の高水位、一番高くなるであろうという高水位が「H.W.L」ハイウォーターレベルというのですが、ここまでですとなっておりまして、今回はそれを越えるような、田園調布（上）の水位ですが。構造としては、多摩川の水位は、ここまでという風にとらえて、構造は造っております。ただ、先ほど、おっしゃったとおりですね、ゲート開閉だけで、こういう気象状況ではございますから、すべてはこれで行けるかはわからない、長期的にそういった対策の検討をしていくということで、しっかりと進めていきたいと・・・

市民 17：

来年の台風どうすんだよ

質問者 17：

あと、世田谷のほうも、今度土手のほう嵩上げするかと思うんですけど、こちらのほうは土手の嵩上げとかの検討はないのでしょうか。

管路保全課長：

堤防の高さということ。堤防を管理しているのが、国交省でございまして、今の計画高水位、うちのほうでそれが、どういう計画かというちょっと、申し上げることができない状況でございます。

質問者 18：

2点のご質問と1点ご要望といったところなんですけども。先ほどから、あのご説明をお伺いしてる限りなのですけれども、検討しますとか長期的なスパンで考えますとかっていうお話なんですけれども。いろいろな、先輩方のお話もお伺いしてる限りだと、40年間かけても何も動いていない状況で、長期的なスパンで考えるというのは何年で考えられているのでしょうか、というのがまず1点で、もう一回その40年50年待たなくちゃいけないのでしょうかと、安心して暮らしたいので、そのタイミングってどの程度なんだろうかと。もう2点目なんですけれども、長期スパンで考えるというときには、それを、その対策が整うまで待たなくちゃいけないと思うんですけども、ショートタームで考えた場合の対策って、先ほどから何も案が出てきてない、と思うんですけど、そういったショートタームでの対応って一体全体、何があるのかなっということがあるので、ここでお聞かせ願いたいと、もしもそういった案がないのであれば、致命的ですけれども、先ほどから、検討していますとか、検討しますとかって言うお話がずっとあるのですけれども、過去にずっと検討会等行われていたはずなので、その議事録だったりとかをすべてアップ、

していただきたいんですね。前回、その2年前、私も引っ越してきたのが3年前ですけど、妻は数十年この地域にいますけども、そういった意味ではたった、僕、3年間しかいない中で、諏訪の地域は水が、上がってしまっていると。そのときに、検討会、同じようにされてますよねと。じゃあ、そのときに検討案がどういったものがあったのか、それがなぜ実現できないのかを、全部我々に提示していただきたくて、そうしないと多分、私は納得できなくてですね。何もやってないようにしか思わない。ので、そういったものをできるだけ、機会を設けていただきたいと。ごめんなさい、要望もう1つ、もう1個増えちゃったんですけども。今日、この場に、おそらくこの住民の皆さんも含めてなんですけども、期待をしてるのは、なぜこのようになってしまったのかという要因を知りたい。要因を知りたいけれども、何も返ってこない。要因がわかったら、今度はその検討であれですけど、対策案聞きたいんですけど。その対策案もない。となると、この住民説明会って何のためにあるのでしょうかっていうのが、まったく分からないので。ものすごいたくさんの方がいらっしゃってますけど、しゃべってる方は4人ぐらいしかいらっしゃらないんですけど、何のための住民会なのか、まったく分からないので、ぜひとも、すべてを明確にする住民会を、こういった住民説明会を、何度でもいいので、開催をしていただきたいというのが要望2つ目です。

下水道計画課長：

長期的なスパンはどのくらいかという話なのですが、一つの事業をやっていく時にですね。少なくとも10年くらいの、オーダーって言うのが最低かかるのかなと感じているところです。今まで、40年間のお話も出ましたが、今回、間違いなく、多摩川がこのような台風19号によってですね。広範囲にわたって、たくさん降雨があつてですね。その影響もあつて、多摩川もあがつてしまった。結果として、この諏訪地区のお住まいの方が、浸水してしまったということは事実でございますので、すぐにですね。軽減、解消できれば一番よいんですけど。まずは段階的にですね、そこにやれることについては早急に整理したいと、思ってます。検証について、今年度末を目指して、動いていきますので、その中でですね。当面、来年もう来ることは分かっていますので、来年までにできること。その中期的なスパンではどんなことができるのか。長期的には、先ほどご意見も出ていましたように、やはり、多摩川の水位が上がってもですね。安心してお住まいになれるということは非常に大切であると感じておりますので、そこについては、本当しっかりと検討していきたいとおもいます。まだ、台風もきて、今日の今日なので、具体的に何ができるということでは、具体的なお話と細かいことはできませんけども、今、当面という中で、いいますと。まずはできること。それがポンプであれ、なにであれやれることをやって行きたいという風に、思っております。あと、ちょっと話は変わるのかも知れませんが、ソフト対策といたしまして、自助のこともやっていただいて。はい、自助ですね。台風が来る前に、住民の皆様も土嚢やったりとやっていただいているということで。内水ハザードマップというのがございまして、今までは、市の方としては、洪水に対する・・・

市民 18 :

全部お前らの責任だろ。自助なんて言うな。

質問者 18 :

まずは、行政さんのほうでやることを明確にするのが筋ではないのでしょうか。といったのが思いました。先ほど僕のほうでお話させていただいたのが、検討会っていったもの、検討しますといったものは、これまず、Yes・No 問題なんですけども、検討したのかしてないのか、過去に。といったところで言うんだったら。しましたか。

下水道計画課長 :

してございます。

質問者 18 :

していたのであれば、そのときに何の方向性を検討したんでしょうか。

下水道計画課長 :

2年前に、多摩川の水が氾濫危険水位まであがっているところでごさいます、その際、浸水被害が起きていることから、その被害が、再度起きないようにするためにはどうしたらいいかということを検討させていただいています。

質問者 18 :

で、再度おきましたけれど、その検討が甘かったと、いうのがこういった資料に今度は出てくるんじゃないですか。

下水道計画課長 :

言葉が足りなかったのですが、検討はしたんですが、対策を実際ですね・・・

質問者 18 :

検討しても対策が実行されなかったら、まったく意味のないことですよね。それは、単なる会議室で、「あー、いやー、これは、どうしよっかねー」ってお話してる座談会にしかない状態で。

市民 18 :

2年間それなの。

質問者 18 :

2年間だけじゃないよね。この直近で2年間って話だけれども、40年間もずっと変わってないでしょ。それを、我々が信じろって言われても、信じられないじゃん。だから、検討会のすべてを、アップしていただきたいのですよ。ホームページに、どんな内容で、どんな議論をして、どんな結果になったのか。それだったら、すぐできますよね。だって、今、この会話も、全部議事録取られてますよね。録音もしてますし、そしたら、そのこういった議事録って、社内だったら普通に議事録として、全関係者に普通回しますよね。それを、住民にもしてくださいって言うてるだけなんですよ。あなたたちの行政内で、お話をされた検討項目、それを全部、透明化してほしいって言うてるだけなんですけど。それは、できますか、できませんか。

下水道計画課長：

ご要望につきましては、今お聞きしましたので、どういう形でできるかについては、ちょっと検討させていただきたいのですが、ご意見としては、お聞きしてますので、そういう方向ですね、できる限り、やって行きたいと思っています。

質問者 18：

この諏訪の、今回ご用意していただいた諏訪-3ですけれども、水深約2mって書いてありますけど。水深2mってどの程度の、高さなのかって、今一度、よく考えていただきたいんですよね。ここに、参加されてる方の、身長で、2mを超えてる人って、ほとんどいないでしょ。これ、ようは、逃げ遅れたら死に直結するっていうお話なんです。それを、検討します、いや、検討した結果、対策案はうまく実行できませんでした。これ、死んでくださいっていつてるんですかね。

下水道計画課長：

決してそういう風には思っておりません。できることをしっかりとやってきたいと思っています。今回、本当にここまでの多摩川の水位があがってますね・・・

市民 18：

多摩川のせいにするな。お前らのやり方がわるいんだろ。

質問者 18：

ハザードマップが作られてる時点で、もうここらへんは水災が起きるっていう可能性が十分にあるってことが、インプットされてるんだから、それをどうやって、やっていこうって考えるのが、行政としては普通の行為じゃないの。

下水道計画課長：

今後ですね、今日こういった説明会をさせていただいていますので、ご意見もお聞きしています。できることをしっかりとやってきたいとおもいます。

質問者 19：

先ほどまで、皆様がかなり、お話いただいたので、思いというものは一緒なのかなと思っております。私は、この会に、将来のことを聞きたくて参りました。ただ、今までの間で、将来にわたることについては、3月までに検討すると、いうお話しかいてない状況です。3月までに検討する内容は何でしょうか。誰が検討するのでしょうか。3月というのは何のリミットなんでしょうか。3月に検討内容がまとまった場合、来年度、その予算は確保されてるのでしょうか。されていないのであれば、概算でも何でもいんですから、とりあえず予算を取っておいて、何かやるんじゃないですか。先ほど、前の方もおっしゃってましたけど、検討の内容は逐一ホームページにアップするなり、していただきたいというところです。検討するメンバーですが、結局役所の内部でお話されても、変わらないのかも知れない。というところありますので、どなたが検討メンバーに入られるのか、外部の有識者入れていただいて、検討していただいて、3月にでた内容というものは、来

年また、台風必ず来ますので、実行をしていただけるような体制をとっていただきたいと思っております。

下水道計画課長：

我々が、これまでやってきたことであるとか、これから検証することですね、そちらにつきましては、ホームページにアップするとか、こういった形で、公表するのにはちょっと検討しますが、必ず公表していくような方向でですね、やらせていただきたいという風に思っておりますので、よろしくお願ひします。また、検証につきましては、こういったメンバーでやるのかというご質問なんですが。まず、メンバーにつきましては、やはり下水道の施設につきましては、我々職員のほうが、まず知っておりますので、まず局の中で関係する課を集めてですね。その中で、検証を進めて行きたいと思ひます。ただそれだけですと、内部だけということ、公平性であるとか、透明性であるという問題も出てくると思ひますので、検証結果については、有識者に助言をいただくとか、そういう確認をいただいくような形でですね。検討してまいりたいと思ひます。

質問者 20：

すいません。今何回か超えて、お時間も2時間しかない中、一人5分の質疑応答ということなんですけど、私、一般市民だと詳しい内容とかもよく理解できていない部分がたくさんあります。先ほど、議事録をということで前の方もおっしゃっていただいているように、今、説明していただいた内容と、質疑応答の内容を、ホームページまたはホームページが見られない方のために、区役所に行けば閲覧できるようにしていただかないと、今、この質疑応答をすべて、私が理解できているかっていったら、すべては理解できていません。今、話を聞いて、その質疑応答をもう一度見て、質問が、これはどうなんだろうというまたわからないところが出てくると、思うんですけど、そういうときにお問い合わせのできる、その、関係の、問い合わせ先を教えてくださいなと思ひます。

管路保全課長：

本日の議事録ですが、こういった感じで皆さんにですね、見ていただくか、これは持ち帰って、考えさせていただきたいと思ひますが。皆さんにですね、見ていただけるようにしていきたいと思ひます。問い合わせ先ですが、それにあわせてですね、今、多分私のところ(管路保全)になるかと思ひますが、調整させていただきたいと思ひます。

質問者 21：

すみません。先ほどから、何度も検討します検討しますって、台風が行ってから一箇月が過ぎました。私たちは、泥水が上がった、家の中で、かび臭い中で、大変な思いをしてるって言うことをご存知で、今日、皆さん対策も持たずに、ここにいらっしやったんですか。それを一度聞きたいと思ひます。私たちは、毎日、かび臭い中で、生活してなければいけないんですよ。それを、自助努力しろとか、自分で部屋を探して出て、自分で家を

直せと、そうおっしゃってるのとおなじですよ。何の対策も持たずに、住民説明会を行うということは、最初から間違ってますか。少し、考えていただきたいと思っ
ていますけれども。

管路保全課長：

ちょうどではないのですが、台風がきてから1箇月。今日ですね、この場所の会場を。とりあえず、まず、この説明会はですね。皆様に、役所の方に聞こえてきたことはですね。どういう状況なのかわからない。どうなってるのかわからない。ということで、まずは、状況をですね、しっかりと説明しないといけない。そう考えて、今日の会を設けさせていただきました。それは、この会場を借りるとかですね、昨日決まって今日でことではなくて、周知の時間も含めたので、とりあえず、皆さんに皆様に、この状況を知っていただきたいと、そういう会として開催させていただきました。

市民21：

じゃあ、これ終わったら、アンケートとして誰が状況確認できたかってアンケートとってくれる。

質問者21：

状況説明だけじゃ、話にならないんじゃないですか。

市民21：

何もやってないっていつてるんだろ。

質問者21：

そうでしょ。

質問者22：

そもそも、溝口や北見方がこの説明会の範囲内に含まれていないんですけど、それはどういうことですか。北見方や溝口でも、浸水被害にあった家はたくさんあるんですよ。それなのに、ビラも北見方の家には配られなくて、諏訪の家だけにポスティングされるっておかしくないですか。それで、こっちが問い合わせたら、来てもいいですよって言われたんですよ。来てもいいですよってなんですか。

市民22：

ふざけんじゃねえぞ

管路保全課長：

申し訳ございません。そういった表現であったなら、大変申し訳ございませんでした。北見方のほうにつきましては、今回の開催にあたってはですね、町会さんのほうと調整を、実はさせていただきまして、北見方の町会さんのほうは、別途ですね、また調整させていただきたいということで、ですね。今、調整中となっております。今回のご案内は、その地域ですね、町会さんと調整させていただいて、その地域を記載させていただいたんですが、多数ですね、その地域じゃないといけないのかということで、それはそういう意味ではご

ございませんということで、ご案内させていただいたつもりでございます。もしも、そういった表現でした、大変申し訳ございませんでした。

質問者 2 2 :

皆様方は、被害状況もきちんと把握してらっしゃらないということなんですね。そうすると。

市民 2 2 :

だから、ポスティングされてなかった家は、もしかしたら、今日、この会があったことも知らなかったかもしれないですよ。もし、日程を調整してるって言うんだったら、とりあえず日程が決まってるところだけをビラに書いて、その下に、その北見方とか溝口は別途、日程を調整中ですので、書くべきじゃないですか。その上でポスティングするべきじゃないですか。私の近所の家の方は、北見方ですけど、今日行われること知らなかった人、いますよ。たくさん。それも、こちらから動かないと、対応してくれないんですか。説明会を聞くことですら。

下水道管理課長 :

先ほどの北見方のほうの住民説明会についてございますが、ただいま、北見方町会のほうの会長様と調整させていただきまして、こちらのほう、皆様にはまだ、ご連絡できないところではあったのですが、12月4日19時からと予定させていただいてる、ところでございます。まだ、皆様にはご連絡できる状況ではなかったのが、今、日にちと時間とが確定したところがございます。

質問者 2 3 :

質問させていただきます。まず、ひな壇に座ってられる方、国家公務員の方、いらっしやいませんよね。出向されてる方。2、3年で帰られる方に答弁されても困るので、いらっしやらないことは間違いないですね。次に、この資料ですけれども、川崎市上下水道局になってます。これ、当然僕は、川崎市が資料として出すんだと思ってましたけれども、市長はこれ。ちゃんと容認されてるんですね。チェックされてるんですね。その前提で、お話を伺ってるということでよろしいですね。それが一点。次に、福田市長は、川崎最幸のまち、安心のまちづくりって言うこと言ってるんです。それから、1箇月に一度は車座になって、各区を回ってる、という、ホームページにも出てるんです。今日は、おみえになってるんですか。

下水道計画課長 :

市長は、みえておりません。

質問者 2 3 :

なんでこないの。こんな大事なときに。声かけたんですか。

下水道計画課長 :

今日の件については、市長へは報告したいと思っています。

質問者 23 :

報告じゃなくて、ちゃんとくるようになって、皆さんから伝えたんですか。

下水道計画課長 :

まず、この住民説明会、ここだけに限らず、今回広いエリアでやっていますので、その住民説明会の件については市長に報告しております。

質問者 23 :

いやだから、出席してくださいって言ったんですか。

下水道計画課長 :

今回、こちら下水道に起因したものでしたので、上下水道局・・・

質問者 23 :

いやいや、上下水道局っていう、だけの責任じゃないでしょ。皆さん、これだけいろんな部局の方が集まっているんでしょから。だから、言ったのか言っていないのか教えてください。出席してくださいって言ったのか言っていないのか。

下水道計画課長 :

そこにつきましたは、出席してくださいとまでは、言ってございません。

質問者 23 :

安心のまちづくりをすると。毎月、車座になって討論会やってるんでしょ。これだけの、有権者集まってるときに、何で市長出てこない。おかしいじゃない。あの、今日は出てこなくても、これから川崎の中、5箇所、6箇所やるんでしょから、当然、出てきますよね。で、必ず被災地の直接意見を聞くべきでしょ。違います。あなたたち、市章つけるってことは今、工作中だよ。勤務中でしょ。俺たち違います。そこらへんから、上下水道局って資料を見た瞬間に僕は。何だよ、上下水道局のだけの責任で終わらせるつもりなのか。てか、責任所在も全然書いてないしね。それから、最初に、え。一人5分ずつで丁寧に話を聞く。で、主催者の方が、ここは、川崎の東高津小学校から借りてるから9時までです。それが丁寧なの。どっかの、国会答弁みたいな言い方してるよね。だって、市民の持ち物じゃないの、ここ。何でそんな言い方をされないといけないのか。僕はここに、60年住んでます。この小学校を卒業し、高津中学校を卒業し、そしてここに住んでます。小学校から借りてますなんて言われるっていう感覚はないんです。最後に、私は60年ここに住んでますけど、16時30分に多摩川に水位を見に行きました。で、過去にも何度もあの程度の水位は見てます。ですけど、そこから戻るときに、すでに下水が溢れ始めてました。逆流してると思います。こんなことは、僕は初めてです。先ほどから、下水をいつ閉めたのかっていう議論があると思いますけれども。疑問しか、今出てきません。この資料が、本当だとは思ってません。あの、9時過ぎてますので、これ以上いいませんけれど、ぜひもう1回、必ず住民説明会開いてください。

市民 21 :

そのときは、市長も、それから国交省の担当者もつれてきてください。

管理者：

今夜は、ありがとうございます事業管理者の金子でございます。貴重なご意見・ご要望、皆さんの、被災された方の訴え苦痛を直接伺いまして、皆さんの「何やってんだ」という思いも非常に強く感じたところでございますし、しっかりやっていかなければいけないことを気持ちとしてまた新たにしたところでございます。本日の説明会はですね、排水樋管周辺地区における浸水被害についてご説明させていただくという目的で開催をいたしましたので、上下水道局として主催をさせていただいたわけでございます。ただいまの、「市長なんでこないんだ」というお話も頂きました。しっかり、受け止めさせていただいて、伝えますけれども、こういった形ですね、説明会に実際なかなか、毎回市長が出るということは難しいと思いますが、誰が出てきてもですねたぶん、「しっかりやらざるを得ない」というお答えをするのは同じでございますので、そこは一つご理解いただきたいと思えます。検討、検討ということばかり、課長達がお答え申し上げましたけれども、私も、検討というよりは一步、二歩進めていかなければいけないという気持ちで一杯でございますし、来年の3月を目処に一定の改善、方向性を取りまとめるということになっておりますけれども、できるだけ早い時期に年内には方向性を出しながら、来年の雨季に間に合う、まず早急な対策を講じていくということをしかりやっ行ってきたいと思えますし、来年度の予算に向けて、あるいは場合によっては国の補正予算を使いながらも、緊急対策としてできることをしかりとやらせていただきたいというように考えております。

それから、この今まで2年間、何をやってきたんだというお叱りいただきました。一定の・・・

(市民から2年じゃないという御意見が入る)

はい。検討させていただいてるなかで決して何もやっていなかったわけではございませんし、これまでの諏訪地区での取り組みにつきましてはホームページ等で正しく、情報提供をさせていただけるような仕組みを考えて行きたいと思っております。本当に、至らない説明会で大変申し訳なかったのですが、皆様の声を直接頂いた、これを改めて重く受け止めてしかりと対応をさせていただきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

(次をやってほしいという意見を頂く)

はい。そういったご要望をしかりと受け止めてですね。今、ここでお約束はできませんけれども、そういったご要望があつということもしかりと受け止めさせていただきたいと思えます。

司会：

申し訳ありません、時間も9時を回っておりますので、本日はこのあたりで終了させていただきたいと思います。本日のですね、質疑内容ですとか、それから本日回答の無かった事項についてはですね、後日、上下水道局のホームページにて公表をいたしますので、ご参考していただければと思います。なおですね、ホームページをご覧になれない方についてはですね、お帰りの際、受付にお知らせいただきますようお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。